

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 7 月調査結果 - -

(平成 1 7 年 8 月 2 日)

調査期間：平成 1 7 年 7 月 2 0 日 ~ 2 6 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 7 8 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 8 製造業 6 2 3 卸売業 2 3 2
小売業 7 3 7 サービス業 6 0 8

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成17年7月調査結果のポイント】

業況DIは2カ月ぶりにマイナス幅が縮小したものの、不透明感続く

7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（33.2）よりマイナス幅が0.8ポイント縮小して32.4となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

業種別の業況DIは、小売を除く4業種でマイナス幅が縮小したため、全産業合計の業況DIのマイナス幅も縮小した。業況好調、売上増加という声の一方、依然として公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感、先行き不透明感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「災害関連の受注が多く、前年より仕事量が多い状態にある」（土木工事）との声がある一方、「公共工事の減少に伴い、受注競争が激化しており、建設業界は相変わらず厳しい業況が続いている」（一般工事）、「公共工事の減少による受注競争の激化が経営体質の弱体化を招き、苦しい状況が続いている」（建築工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「デジタルカメラ、プラズマテレビ、DVD関連を中心に緩やかな増加傾向が続いているため、生産体制を強化すべく設備投資を実施している」（電子部品製造）との声がある一方、「荷動きが悪く販売価格も低下するなか、円安により仕入価格が上昇し、採算が悪化している」（製材木製品製造）、「仕事量の減少に加え、一部の材料価格の値上がりによる仕入コスト上昇から、粗利益がますます低下している」（建具製造）といった声が寄せられている。

【卸売業】では、「売上は増加傾向にあり、採算も好転しつつある」（農畜産水産物卸売）との声がある一方、「業況は依然低迷しており、先行きについても好転の兆しが見られない」（家具・建具等卸売）、「観光関連業者、飲食業者からの受注減少が続いており、業況の好転は全く見込めない」（食料・飲料卸売）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「雇用と所得環境の改善を受け、ファッション関連商品を中心に売上が好調に推移していることから、ようやく明るい兆しが見えてきた」（百貨店）との声がある一方、「来客数は若干増加している感があるが、客単価の低下により、売上は減少傾向にある」（商店街）、「消費者の購買意欲は依然低く、安価な商品しか売れない状況が続いている」（百貨店）といった声が寄せられている。

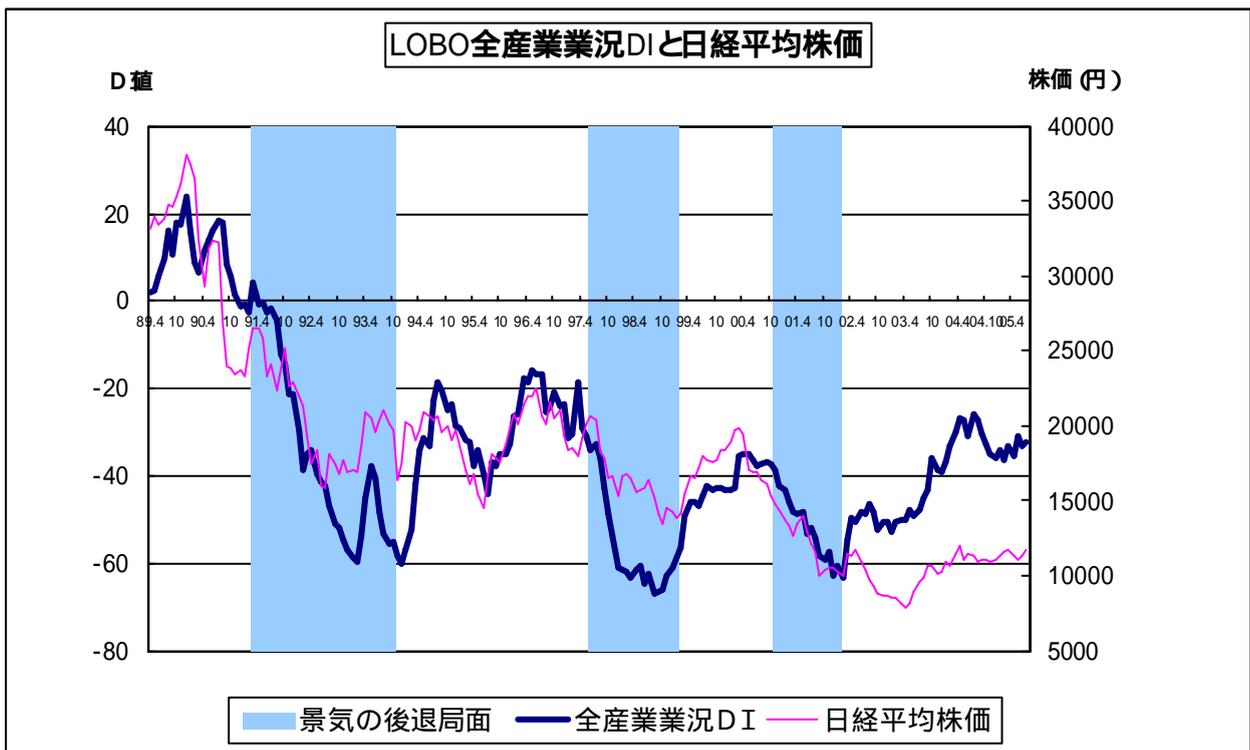
【サービス業】では、「夏場は業界全体が忙しく、冷たいメニューを中心に売上は好調」（そば・うどん店）、「お盆前後は帰省客が増えるため、これからの時期が稼ぎ時である」（料亭）との声がある一方、「燃料価格が高騰を続けている」（運送業）、「宴会、個人客ともに客入りが非常に悪く、業況はかなり厳しい」（すし店）といった声が寄せられている。

売上面では、DI値のマイナス幅は小売を除く4業種で縮小したため、全産業合計の売上DIは1.8ポイント縮小して26.3となり、3カ月連続で縮小した。

採算面では、DI値のマイナス幅は製造で拡大したものの、小売で横ばい、他の3業種で縮小したため、全産業合計の採算DIは1.9ポイント縮小して31.6となり、2カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(8月~10月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が26.6と、昨年同時期の先行き見通し(20.1)に比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、業況好調、売上増加という声の一方、依然として公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感、先行き不透明感を訴える声が寄せられている。



【業況についての判断】

7月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 33.2 ）よりマイナス幅が0.8ポイント縮小して 32.4となり、2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

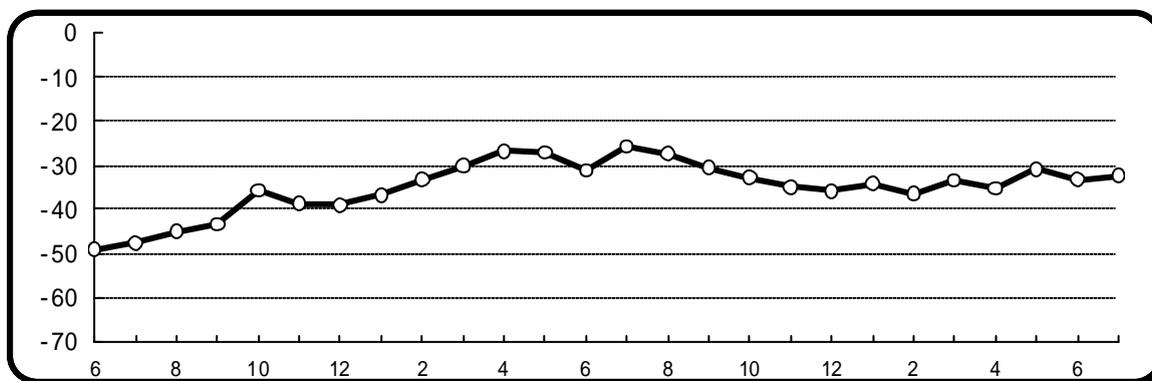
向こう3カ月（8月～10月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が 26.6と、昨年同時期の先行き見通し（ 20.1 ）に比べて悪化している。

業況DI（前年同月比）の推移

	17年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	36.5	33.4	35.3	30.9	33.2	32.4	26.6 (20.1)
建設	47.2	42.9	46.0	42.2	44.7	43.2	36.5 (38.1)
製造	23.4	24.0	24.6	23.8	23.9	21.2	15.6 (12.1)
卸売	43.8	36.1	39.6	37.7	40.2	38.5	27.5 (16.6)
小売	40.5	34.0	37.8	31.0	30.8	33.9	29.1 (20.7)
サービス	36.0	35.5	35.1	28.7	35.2	33.1	28.6 (17.0)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年7月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

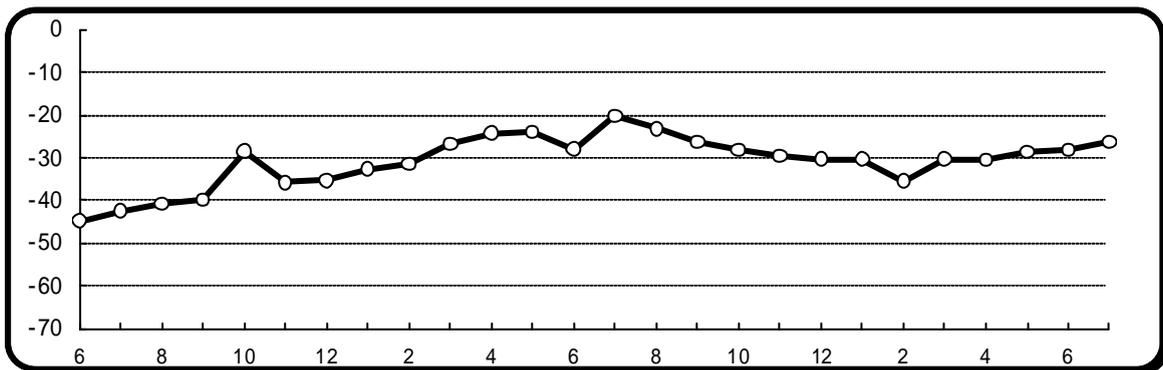
売上面では、D I 値のマイナス幅は小売を除く 4 業種で縮小したため、全産業合計の売上 D I は 1.8 ポイント縮小して 26.3 となり、3 カ月連続で縮小した。

向こう 3 カ月(8 月～10 月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上 D I (今月比ベース)が 19.7 と、昨年同時期の先行き見通し(16.1)に比べて悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	17年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	35.5	30.4	30.5	28.6	28.1	26.3	19.7 (16.1)
建設	48.5	40.0	39.8	39.6	40.1	37.0	32.5 (30.1)
製造	20.3	10.0	13.2	13.7	10.3	9.6	5.3 (7.2)
卸売	45.0	36.7	38.4	38.4	39.9	36.7	22.8 (10.4)
小売	41.0	39.5	37.5	30.4	29.2	31.1	25.0 (18.4)
サービス	32.9	32.0	31.7	31.5	32.8	27.2	19.5 (15.9)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

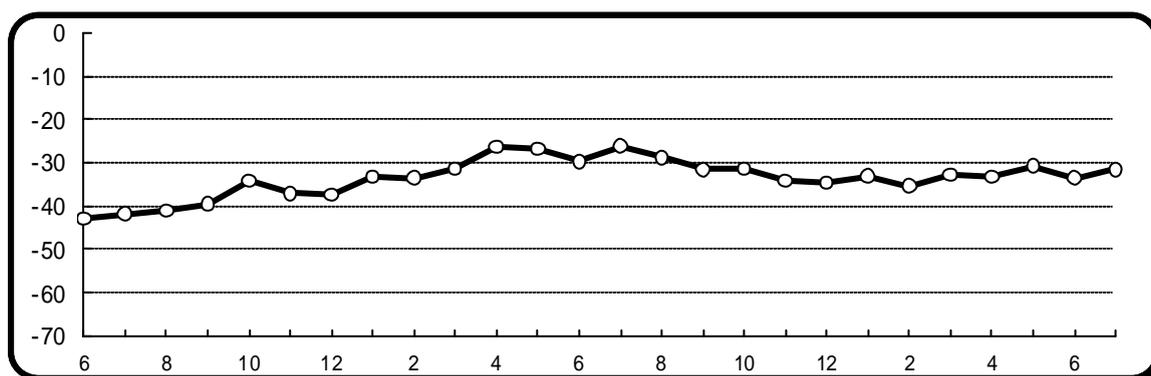
採算面では、D I 値のマイナス幅は製造で拡大したものの、小売で横ばい、他の3業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は1.9ポイント縮小して31.6となり、2カ月ぶりに縮小した。

向こう3カ月(8月～10月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が25.0と、昨年同時期の先行き見通し(20.8)に比べて悪化している。

採算D I (前年同月比)の推移

	17年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8～10月
全産業	35.4	32.9	33.3	30.8	33.5	31.6	25.0 (20.8)
建設	52.0	49.5	50.0	44.4	50.0	47.3	35.9 (39.4)
製造	29.4	24.7	27.1	25.2	27.1	27.5	21.1 (19.2)
卸売	32.5	24.7	30.5	30.2	32.9	29.6	23.4 (12.9)
小売	32.4	31.8	32.4	27.7	27.1	27.1	22.5 (16.0)
サービス	35.5	35.0	31.7	32.0	36.9	32.4	26.0 (19.0)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	17年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	24.5	25.0	23.6	21.8	22.4	20.7	18.1 (19.2)
建設	40.0	39.4	39.7	39.2	37.8	37.9	32.8 (38.5)
製造	18.5	19.7	20.0	16.8	16.8	17.8	14.5 (13.4)
卸売	23.5	21.3	19.9	17.7	16.5	19.6	10.7 (13.7)
小売	21.7	23.3	19.7	18.4	18.1	16.4	16.6 (14.8)
サービス	23.5	23.6	22.4	20.3	24.4	16.3	17.3 (19.8)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造、卸売で悪化超感が強まったものの、他の2業種で弱まり、全産業合計でも2カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】製造、小売で昨年同時期に比べ悪化超感が強まったものの、他の3業種では弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	17年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	16.9	16.6	19.3	19.6	16.9	17.3	15.1 (12.7)
建設	21.0	25.3	26.4	32.0	25.5	27.3	21.6 (24.5)
製造	32.6	35.8	36.9	34.6	31.8	31.0	23.4 (23.6)
卸売	12.6	12.7	14.6	19.0	14.6	16.0	18.6 (11.1)
小売	5.3	1.0	5.6	5.9	3.9	5.1	6.9 (1.4)
サービス	13.1	10.8	14.2	12.5	12.1	11.6	10.7 (7.2)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造、サービスで上昇超感が弱まったものの、他の3業種で強まったため、全産業合計でも2カ月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】建設、製造で昨年同時期に比べ上昇超感が弱まったものの、他の3業種で強まったため、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	17年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全産業	6.7	6.6	6.8	5.0	5.2	4.4	4.6 (7.5)
建設	26.2	23.0	22.9	23.1	19.9	20.2	17.4 (24.5)
製造	7.3	7.7	8.3	5.3	4.3	3.5	5.4 (7.5)
卸売	8.1	8.2	9.8	8.8	12.8	5.3	8.1 (4.9)
小売	0.6	1.4	0.6	2.2	3.6	0.2	0.4 (2.5)
サービス	1.0	3.3	2.5	0.2	3.9	0.5	0.0 (2.4)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】建設、小売で過剰超感が強まったものの、他の3業種で弱まったため、全産業合計でも2カ月ぶりに弱まる。

【先行き見通し D I】卸売を除く4業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年7月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「他の地域と比較して仕事量は多いものの、地域内で見れば全体的に減少しており、厳しい状況に変わりはない」(岩見沢・建築工事)、「国内需要の低迷と海外からの安価な製品の流入などから、依然、厳しい状況が続いている」(静岡・家具製造)、「当面の仕事量は確保したものの、採算が取れない仕事もあり、状況は非常に厳しい」(尾道・船舶製造修理)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「業況は依然として低迷しており、今後も好転の兆しが見られず、先行きが不安である」(多治見・家具建具卸売)、「セールでは前年実績を確保できても、その前後での落ち込みが大きく、全体としては前年実績の確保が難しい状況にある」(鹿児島・百貨店)、「宴会・宿泊ともに少なく、厳しい状況にある」(因島・旅館)と、厳しい業況を訴えるコメントが寄せられている。

回復への動き

一方で、各業種から、業況は好調との声が寄せられており、「公共工事、住宅建設が増加している」(長野・一般工事)、「すこしずつではあるが、生麺の売上高が増加傾向にあり、特に地元で製造された原料を使った製品の売上高が増えつつある」(盛岡・他の食料品製造)、「売上は増加傾向にあり、採算も好転しつつある」(福島・農畜産水産物卸売)といったコメントが寄せられている。また、「夏物のクリアランスセールと中元ギフトの好調により、7月も売上高が前年同月を上回る見込み」(水戸・百貨店)、「7月に実施したバーゲンが女性用衣料品を中心に好調で、売上高が前年同月を上回っている」(下関・商店街)、「6月より多少は業況が好転しているように感じる」(大府・理容)、「夏休みに入り、来客数が増えることを期待している」(伊万里・食堂・レストラン)と、売上の好調や先行きに期待する声も寄せられている。

仕入コスト上昇

仕入コストの上昇を訴えるコメントも多く寄せられている。「7月に入り、鋼材の値上がり一段と目立つ」(北上・他電気機器製造)、「用紙・インクなどの石油関連製品も値上がりの傾向を示してきた」(長野・印刷業)、「原材料、包装資材ともに仕入価格が上昇しているため、上昇分を製品価格に転嫁せざるを得ない状態に近づきつつある」(焼津・水産食料品製造)、「ゴムや原油の価格高騰が負担となっており、製品価格の値上げを実施する企業もあるなか、価格に転嫁できない中小企業も多く、収益を圧迫している」(神戸・タイヤ・チューブ製造)という製造業からの声に加え、サービス業からは「トラックによる輸送コストで重要な位置を占める燃料価格が高騰を続けている」(川口・運送業)、「燃料高騰による影響を受けている運送業界からの受注減少、コスト削減要望が強く、経営への悪影響が徐々に始まった」(帯広・自動車整備)という声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
17年	5月	悪化への懸念	回復への動き	仕入コスト上昇
	6月	悪化への懸念	回復への動き	
	7月	悪化への懸念	回復への動き	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況・売上・採算D Iともに2カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「学校、公共建築物の耐震工事がピークを迎えている」(一般工事)「災害関連の受注が多く、前年より仕事量が多い状態にある」(土木工事)との声がある一方、「公共工事の減少に伴い、受注競争が激化しており、建設業界は相変わらず厳しい業況が続いている」(一般工事)「公共工事の減少による受注競争の激化が経営体質の弱体化を招き、苦しい状況が続いている」(建築工事)「公共・民間工事ともに発注件数が減少し、大変厳しい状況が続いている」(建築工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iで2カ月ぶり、売上D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小し、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「デジタルカメラ、プラズマテレビ、DVD関連を中心に緩やかな増加傾向が続いているため、生産体制を強化すべく設備投資を実施している」(電子部品製造)「一時落ち込んでいた受注がやや持ち直した気配あり」(ブリキ缶等製造)との声がある一方、「荷動きが悪く販売価格も低下するなか、円安により仕入価格が上昇し、採算が悪化している」(製材木製品製造)、「原材料の仕入単価の値上がりを先行き不安の要因と認識する経営者が多くなっている」(他金属製品製造)「仕事量の減少に加え、一部の材料価格の値上がりにより、粗利益がますます減少している」(建具製造)といった声が寄せられている。
卸 売	業況・採算D Iで2カ月ぶり、売上D Iで4カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「自動車の新車登録は3カ月連続で前年を上回った」(自動車卸売)「売上は増加傾向にあり、採算も好転しつつある」(農畜産水産物卸売)との声がある一方、「業況は依然低迷しており、先行きについても好転の兆しが見られない」(家具・建具等卸売)「小売店、地方問屋の買い付け意欲が弱く、引き続き業況に活気が見られない」(衣服・日用品卸)「観光関連業者、飲食業者からの受注減少が続いており、業況の好転は全く見込めない」(食料・飲料卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iで3カ月ぶり、売上D Iは5カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは横ばいであった。「雇用と所得環境の改善を受け、ファッション関連商品を中心に売上が好調に推移していることから、ようやく明るい兆しが見えてきた」(百貨店)「来店客数が増加傾向にあり、消費者の購買意欲が高まっている感がある」(百貨店)との声がある一方、「来客数は若干増加している感があるが、客単価の低下により、売上は減少傾向にある」(商店街)「依然として来店客数の減少による売上低迷が続いている」(その他の小売)「消費者の購買意欲は依然低く、安価な商品しか売れない状況が続いている」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況・売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「夏場は業界全体が忙しく、冷たいメニューを中心に売上は好調」(そば・うどん店)、「お盆前後は帰省客が増えるため、これからの時期が稼ぎ時である」(料亭)との声がある一方、「燃料価格が高騰を続けている」(運送業)「ここ数年で例を見ないほどの落ち込み」(旅館)「景気低迷の影響で客単価が下がり、売上に影響を及ぼしている」(食堂、レストラン)「宴会、個人客ともに客入りが非常に悪く、業況はかなり厳しい」(すし店)「売上が前年同月を下回っており、低い水準での横ばい状態が続いている」(そば・うどん店)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、東北、東海、近畿、中国、九州でマイナス幅が拡大したが、他の4ブロックで縮小したため、全ブロック合計でも2カ月ぶりに縮小した。

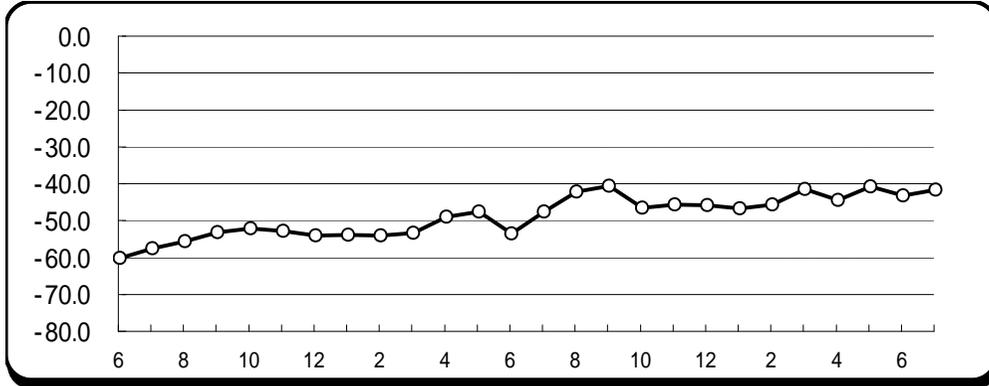
ブロック別の向こう3カ月(8月~10月)の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、北陸信越を除く8ブロックで悪化したため、全ブロック合計でも悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

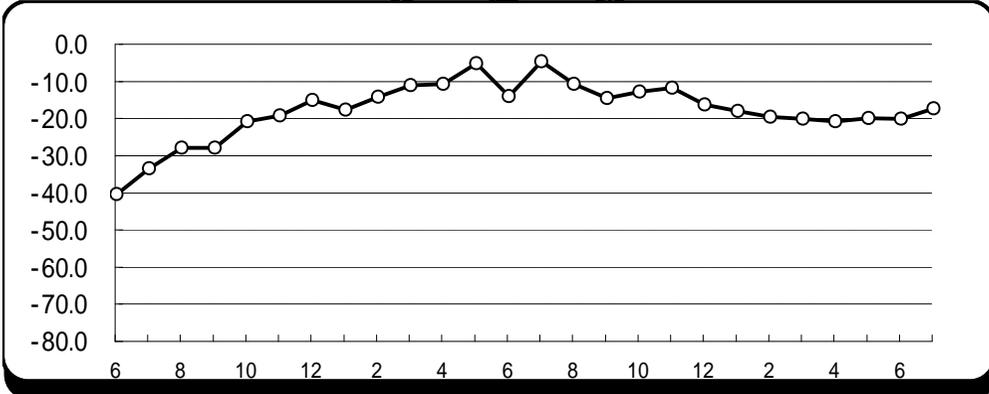
	17年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 8~10月
全 国	36.5	33.4	35.3	30.9	33.2	32.4	26.6 (20.1)
北海道	30.8	27.9	35.7	36.4	32.4	31.4	28.0 (23.8)
東 北	40.8	38.3	42.9	37.7	32.7	37.1	27.7 (23.8)
北陸信越	35.9	39.5	28.2	27.6	36.9	25.1	23.5 (25.3)
関 東	32.4	29.4	36.0	32.8	33.8	29.5	22.9 (13.3)
東 海	25.1	25.9	29.7	20.1	26.1	30.2	29.6 (14.4)
近 畿	44.0	38.1	38.6	36.0	35.8	40.7	32.7 (28.9)
中 国	39.3	36.2	28.9	32.9	30.3	32.9	30.2 (25.3)
四 国	48.6	34.7	37.5	25.9	40.8	37.4	25.2 (17.5)
九 州	36.8	34.3	37.5	27.0	28.9	29.4	23.2 (14.9)

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

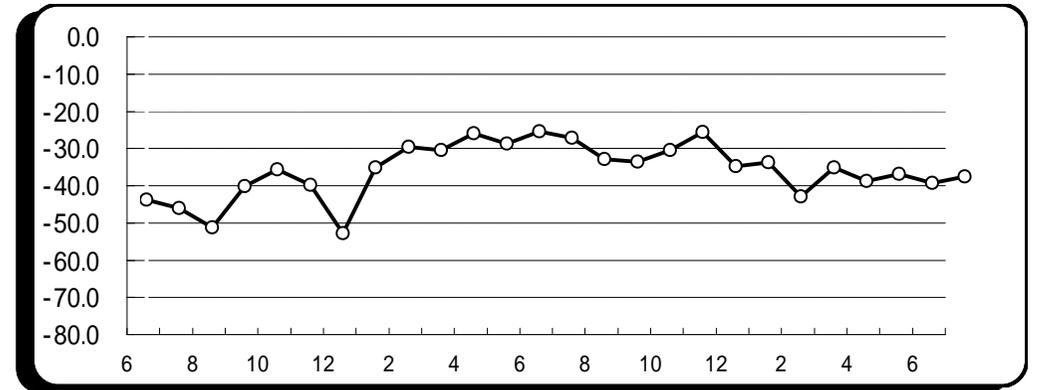
建設業



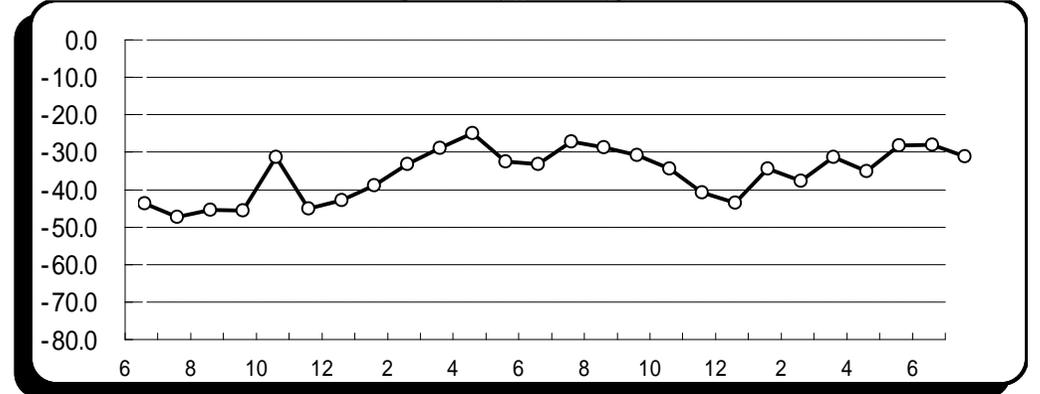
製造業



卸売業



小売業



サービス業

